

リンゴハダニによる被害が増加しています。園地をよく観察し、発生が目立つ場合は速やかに防除しましょう。

現在の状況

- 7月後半の巡回調査におけるリンゴハダニの発生園地率は、38.7%（平年26.8%）で平年よりやや高く、発生程度中以上の園地は22.6%（平年8.1%）と、平年より高かった（図1）。
- 地域別の発生園地率は、県中部及び県南部で平年より高かった（図2）。
- 向こう1か月（7/20～8/19）の平均気温は高い予報であり（7月18日、仙台管区气象台発表）、リンゴハダニの増殖に好適な条件である。

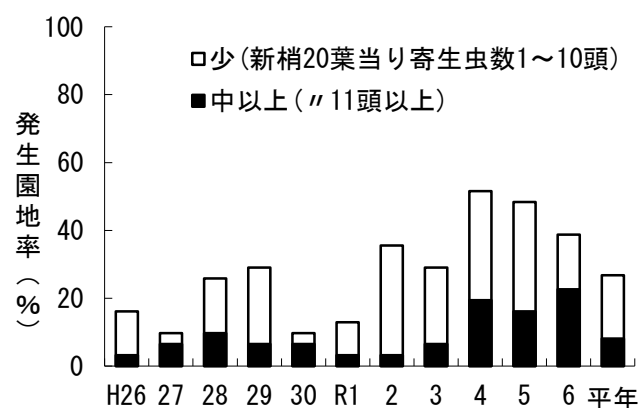


図1 リンゴハダニの発生園地率の年次推移（7月後半）

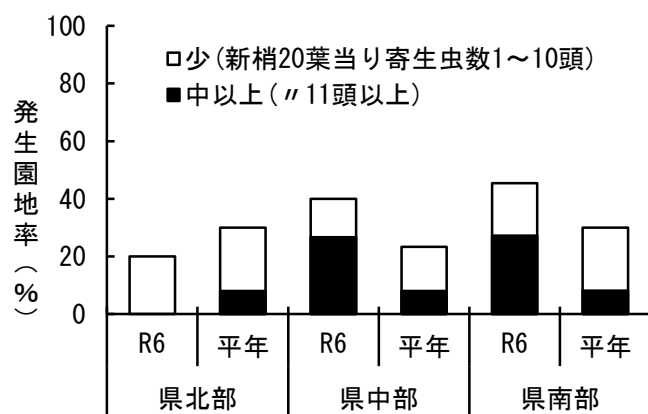


図2 リンゴハダニの地域別発生園地率（7月後半）



参考図 リンゴハダニ

防除対策

- ハダニ類の要防除水準は寄生葉率30%である。わい性樹では主幹近くの新梢葉、普通樹では主幹・主枝の徒長枝の下位葉を良く観察する。なお、目通りでの発生が少なくても、樹上部で多発している場合があるので、樹上部の徒長枝葉も観察し、要防除水準に達した場合は直ちに防除を実施する。
- 夏期はハダニ類の増殖が早いので、防除適期を逃がさないよう注意すること。
- 薬剤散布は樹上部までかかるよう十分量を丁寧に行う。不要な徒長枝は散布ムラの原因となるので、早めに剪除し薬剤のかかりやすい樹形を維持する。
- 薬剤抵抗性ハダニの発現回避のため、同一系統の薬剤は1シーズン1回の使用に限る。また、複数年を単位とした薬剤のローテーションを遵守する。

(5) 補完防除剤散布後も密度が高い場合は、特別散布を実施する。なお、殺ダニ剤のダニオーテフロアブルは、銅剤との混用により効果の低下が懸念されるため、混用しない。また、近接散布による効果の低下を避けるため、ダニオーテフロアブルの散布から 10 日間は銅剤を散布せず、銅剤散布後は1か月間、ダニオーテフロアブルを散布しない。

【利用上の注意】

本資料は、令和6年7月 10 日現在の農薬登録情報に基づいて作成しています。

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際は**(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳**を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL:0197(68)4427 FAX:0197(68)4316

☆この情報は、いわてアグリベンチャーネットでもご覧いただけます。

アドレス <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/boujo/2003279/index.html>

